



神埼市立脊振中学校 学校だより

樹人舎 第17号

令和6年1月26日 校長 牟田美弥子

【学校教育目標】

脊振を愛し、進んで学ぶ、たくましい子どもの育成

【令和5年度の生活目標】

①自分たちで学校のよい雰囲気をつくる

②周りに信頼されるにはどうあるべきか考えて行動する

☆「友誼常青」—脊振中と山西大学附属中の友情が永遠に続くことを願って—



姉妹校である中国の山西大学附属中学校には、日本語が分かる先生がおいでです。お名前は、郭玉鳳先生で、李奮平校長先生と私の手紙のやりとりを手伝ってくださっています。ですから、同じ漢字でも意味が異なることもある中国へ、私は安心して日本語で手紙を書いて送り、李校長先生からも日本語の手紙をいただけるのです。

私は、平成元年に姉妹校締結をした後の平成4年4月から8年間、脊振中に勤務し、当時の校長先生から姉妹校交流担当を任された年がありました。

そのとき、「生徒が直接交流できる機会は限られている。生徒たちに文通をさせ、姉妹校の生徒を身近に感じさせて交流を実感させたい。中国語の文章が書けなくても、英語で書いたり漢字を多く使ったりすれば、何とかなるだろう」と考え、夏には全校生徒が自己紹介と学校生活の様子を自由に綴った手紙、冬には年賀状を中国に送りました。

お手紙をいただき、ありがとうございました。

脊振中学校の生徒たちのかわいい年賀状や自己紹介のカードなどの手紙が生徒たちに披露され、生徒たちも脊振のみなさんと会えるのを楽しみにしています。

こちらの生徒は今、期末試験の準備に積極的に取り組んでいます。1月29日に冬休みに入り、2月26日から来学期の勉強が始まります。

日本の生徒と違うのは、私たちは1年間に2学期があり、9月に進学します。

すると、3学期になって生徒個人に宛てたたくさんの手紙が届きました。

当時、山西大学附属中学校でそのお世話をしてくださったのも、確か郭先生というお名前でした。

（もしかして・・・）

さて、去年の暮れに脊振中の生徒たちが送った年賀状と自己紹介カードが附属中の生徒のもとに届いたということで、郭先生からお礼のメールがきました。附属中の学校の様子や脊振中の3年生の受験を応援するメッセージが書かれています。

平成9年、附属中訪問団を迎えたときに脊振中から贈った記念品に、当時の校長先生が『両校友誼、年々深交』という言葉を考えて刻まれたことを思い出します。

コロナ禍を超えて直接交流が復活し、両校の交流がさらに深まっていくことを願っています。

山西省太原市では今年一番寒い時に-20℃。今は一番寒い時はもう過ぎて、今の最低温度は-12℃ぐらいです。室内は暖房が入っているので、寒く感じません。

脊振中学3年生が理想の高校に進学し、夢を叶えることを祈念致します。

脊振中学校がますますよくなることを祈って、みなさんのご健康をお祈りいたします！

2024年1月15日 郭玉鳳

☆1月24日は雪で休校。 1月25日朝の学校の気温 -5.1度

今季いちばんの寒さの時期を迎えて、学校の池に厚さ1cmの氷がはりました。



校門前の歩道は上り坂。このときのためにと備えた雪かき用の板と雪かきスコップが大活躍しました。

「手紙」は、中国ではトイレトペーパーのことらしい。翻訳ソフトだけでは、細かいニュアンスは伝わらないのでしょね。